

新春に詠む短歌

老人ホームの広きホールに冴え渡るピアノは謡う沢内甚句を

昔懐かしい方が入所されている近くの老人ホームへ時折おじゃまします。
広いホールのグランドピアノでその方の好きな沢内甚句を弾いて二人で口
ずさみしました。とても喜んでくださり、私も幸せな気分をいただきました。

新春のやわき陽のなか幸せを呼ぶ福寿草の黄が咲き初む

新年を迎え、ふと庭に目をやると陽だまりのなか、福寿草が二輪
咲いていた。今年はいいことありそう。

裏庭に水仙・千両咲き誇るたつぷり活けて色香いとしむ

時たま裏庭で草取りをするが、年末になると千両が真赤に実の
り水仙が咲く。正月に花を活けて楽しむ。

合格点もらえるかしらと語りかけ母に供えるおせち料理を

重箱に詰められた色とりどりのおせち料理は、私にとつて遠い
母の思い出の一つです。「まだまだだね」という声が聞こえてくるよ
うです。

一年の喜び悲しみたずさえて希望をつなぐ除夜の鐘きく

長いようで短い一年、除夜の鐘を聞きつついろいろの出来事を
振り返ってみる。この一年に感謝をし、新しい年に希望をもちた
いものである。どんな世の中にあつても。

筑波嶺の裾にひろがる蕎麦の花秋かげ淡く白き風立ちぬ

筑波山にゆく途中思わず目にした光景です。白々とした花が風
に揺れていました。

初春の浦の岸辺にひかり満ち水面に鳥の群れたつを見る

霞ヶ浦の情景、大空へ羽ばたく鳥に平和と幸せを祈りて。
塚原 洋子

はつ春の朝日が照らす富士の山あかず眺めり常名の丘ゆ

お正月の早朝、家の近くの見晴らしの良い丘まで出向き、凜と
たつ富士山に挨拶する。富士のさらに彼方の故郷の皆は達者だろ
うか。どうか今年も健康で！
福原 安栄

父と子の空手着はされてベランダに不協和音のような風吹く

父親と子供の空手着が風に吹かれている。子供の成長を見つめ、
何か言葉をかけている様な光景である。
井上 秀子

滴れる葡萄白磁の皿に盛りひとり楽しむ朝の食卓

山梨から届いたという立派な葡萄を友人からいただいた。あま
り見事なので白磁の皿に、暫らく眺めていた。こんな平穏が続く
ことを願いつつ。
菊間 きみ

植物の適地が変る実をつけし蜜柑の苗木盛んに売らる

地球の温暖化が進み、暖地の産物であった蜜柑も、この辺りで
も盛んに植えられるようになった。
松崎 國男

水仙のふあーつと香るくりや辺は春のひそみし和らぎのあり

水仙の芳香はあたりに漂い、それだけで幸福感に包まれる。凜
とした春の使者であらう。
井上 寛江

吊し柿冷氣に馴染む粧ほひに剥き痕残す飴色のよし

柿を見ていますと、何となく昔のこと、故郷のことが懐かしく
思い出されます。この思いはどんな便利な時代になっても変わら
ないでしょう。
市島 紀郎

冷蔵庫の扉に小さき旅の写真偶かに見れば楽しき記憶

冷蔵庫の扉に旅の写真をならべて張ってあり、時折見ますと楽
しかった旅を思い出します。
山口 節子

朗朗と百人一首を祖母よめば小さき手も伸ぶ遙けき新春

母は娘時代、和裁の先生に百人一首を学んだ。常に語んじ、正
月には三世代が集い、子供たちも喜んで興じた想い出を懐しむ。
櫻井 雅江

みどり子を抱けばつぶらな瞳むけ話す喃語の我にやさしく

生後七か月の幼子を抱くと、清々しい目を向け、言葉にならな
い声を発して、語りかける姿が可愛い。健やかな成長を祈りたい。
大越 里子

新春に詠む俳句

大鳥居抜けて未来へ寒椿

神社の大きな鳥居の前に立つといつも改まった気持ちになる。初詣では殊更気分新たか。今年はどのような年になるのかと心弾ませる。良い年でありますように。寒椿の美しさが目に留まる。

支柱みな背丈の傷や初日射す

二人の孫が代わるがわりに支柱の前に立っては付けて行った傷跡。もう社会人と高校生ともなると、古い傷となって思い出に残る。新しい年の太陽が目映いまでにこの古傷を温めている。

元旦の薬缶の湯気の立ちにけり

何げなく毎日沸かしている薬缶のお湯。この平凡な暮らしの繰り返しも、年が改まることによる気分は一入である。水は、いつもと同じのだが、それが新しく感じられる。

正月や王手飛車打つ子の将棋

去年覚えて本将棋。家族の誰彼となく誘ってくる。小学2年生の女の子、幼いながらもなかなかの上達ぶりである。大人ももの見事に負かされてしまう。わが家の正月の一齣である。

小魚の渚によれる初日かな

国民宿舎水郷の前に人工の汀がある。澄んだ水が砂丘の入江から入ってくる。漣が寄せてくるのも可愛い。霞ヶ浦の水を手にくい子どもも高齢者も楽しむことができる。小さな名所である。

働けるうちは働く初御空

新年の清々しい空。今年も、周りの人たちを楽にさせるよう働きますのでどうぞよろしく、という祈りを込めて見上げる。おのずと身の引き締まる心地になってゆく。頑張らなくては。

春着の子しとやかなるは小半時

娘が着たお正月の着物を孫娘に。最初のうちはポーズを決めて記念撮影などしていたが、小半時もたつとスキップしたり、走り。女の子とて元気が何より。健やかさを祈るばかりだ。

冬山や神の領地に荷を下ろし

今年も初登山は筑波山である。まずは筑波山神社に参拝し脇道から登り始める。凜々とした樹林帯も山頂もすべては神の領域と思えてくる。敵かさの漂うなか、心身共に清められてゆく。

新春に詠む川柳

相澤アヤ子

お神酒あげ虎に振舞う事始め

今年も虎年、その勇姿からたくさんの諭えに登場する人気者。「虎の威」「虎に翼」「虎の尾」など王者の貫禄である。例外は酔って「虎になる」こと。ほど良いトラで頑張りましょう。

佐藤てつ子

福よ来い家族揃って初笑い

朝を笑顔で迎えた日は、吉報を呼び込むことが出来るそうです。元旦の朝も一年の幸福を願い、笑い合ひ祝い膳を囲みます。

土田 信子

初詣ひまごとと担ぐ大熊手

よちよちと歩く曾孫を抱いて初詣の人込みの中を神前に進むのは無理、肩車で妻のガードにより思い通り神前へ、息災、成長祈願の大熊手を肩に笑顔で家路につく。

沼尻 芳子

身の丈の分だけ拝む初詣で

あれもこれも願ひ事はたくさんあるが、欲張っても仕方ないこと、せめて身近なところで、家内安全ぐらいにしておけば、神様もきつと叶えてくれるのでは、お賽銭もそれなりに。

藤川 祐子

初日見て無神論者も手を合わす

初日の出には宗教を越えた何かが備わっている。それは絶対的な強さ、荘厳である。お正月は宗教を忘れ、とにかくめでたく祝いたいものである。

堀越喜代子

新春に一つ増えてた笑い皺

世知辛い世の中、せめて笑顔で過ごしましょうよ。また新春に笑い皺が増えてる様に。

宮本 満子

新春の家族の顔は輝いて

一月一日の朝、家族が揃い良いことがあるよう願って、見渡す顔がにこにこ輝いているように見える。

山根 延子

梯子乗り青い大空独り占め

出初式に欠かせない梯子乗りは日本古来の新年の風物詩。男の粋を梯子の上で演ずる若者が観客の熱い視線を一身に集める。その晴れやかな姿は一年の安寧を教示している様。

富永 柳道

須藤 桜花

関口 進吾

谷藤美智子

中島みさお

太田 鳴子

長井まさこ

加藤 光山